

# 楽座新聞 目次

(活動報告会発表順)

プロジェクト名(チーム名)	区分(継続年度)
内湖における侵略的外来種駆除(滋賀県大 BASSER`S)	継続(2011年~)
ART FORUM 2013 DIG`S(DIG`S)	継続(2009年~)
障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト(ボランティアサークル Harmony)	継続(2004年~)
チーム・バンデイル・ジ・オウロ(バンデイル・ジ・オウロ)	継続(2010年~)
あかりんちゅ(あかりんちゅ)	S 継続(2009年~)
男鬼楽座(男鬼楽座)	継続(2004年~)
とよさらだプロジェクト(とよさらだ)	継続(2009年~)
地域博物館プロジェクト(スチューデント・キュレーターズ)	継続(2012年~)
三階蔵覚醒プロジェクト(三階蔵部)	新規(2013年~)
おとくらプロジェクト(おとくらプロジェクト)	継続(2010年~)
かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-(かみおかべ古民家活用計画 SB)	継続(2012年~)
S(Saigai&Shiga)T(Taisaku&Tanoura) 交流推進プロジェクト(田の浦ファンクラブ学生サポートチーム)	新規(2013年~)
木興プロジェクト(木興プロジェクト)	継続(2011年~)
たけともー竹の会所 友の会(たけともー竹の会所 友の会)	継続(2012年~)
未来看護塾(未来看護塾)	継続(2004年~)
信・楽・人 -shigaraki field gallery project-(信・楽・人 -shigaraki field gallery project-)	継続(2007年~)
Taga-Town-Project (Taga-Town-Project)	継続(2013年~)
政所茶レン茶* (政所茶レン茶* )	新規(2013年~)
能登川商店街とのコラボレーション企画による地域活性化(能魅会)	継続(2012年~)
とよさと快蔵プロジェクト(とよさと快蔵プロジェクト)	継続(2004年~)

# 楽座新聞

## 平成25年度 近江楽座活動報告会号

近江楽座の20のプロジェクトが活動をまとめた新聞です。

これらの新聞・ポスターは、基本的にレイアウトが自由なので、チームの個性がそのまま紙面に出版していることも特徴です。楽座メンバーの自信作“らくざしんぶん”をぜひご覧ください。この資料では全て白黒になっていますが、下記「活動成果展示会」におきまして、原稿のカラー版を展示します。ぜひお越しください!

### プロジェクト区分について

新規プロジェクト:平成16~24年度に、近江楽座の助成を受けたことがないチームによる取り組み  
継続プロジェクト:平成16~24年度のいずれかに、近江楽座の助成を受けたことがあるチームによる取り組み  
Sプロジェクト:「近江楽座」での実績をもとに、さらなるステップアップをめざすプロジェクトで、活動資金の助成を必要としないもの。

## 2013年度 近江楽座 活動報告会 <プログラム>

2014年4月19日(土)9:00~16:20  
講義棟 A3-301

### 1. 活動発表

全20チームが4つのパートに分かれて活動報告を行います。

- 【パート1】 9:10 ~ 10:10 滋賀県大 BASSER`S / DIG`S / ボランティアサークル Harmony / バンデイル・ジ・オウロ / あかりんちゅ
- 【パート2】 11:20 ~ 11:20 男鬼楽座 / とよさらだ / スチューデント・キュレーターズ / 三階蔵部 / おとくらプロジェクト
- 【パート3】 11:30 ~ 12:30 かみおかべ古民家活用計画 SB / ST 交流推進プロジェクト / 木興プロジェクト / たけともー竹の会所 友の会 / 未来看護塾
- 【パート4】 13:30 ~ 14:30 信・楽・人 -shigaraki field gallery project- / Taga-Town-Project / 政所茶レン茶\* / 能魅会(のみかい) / とよさと快蔵プロジェクト

### 2. ミニシンポジウム

14:40 ~ 16:10

学生たちが実施した近江楽座10周年記念企画の報告と、そこから見てきた“これからの”近江楽座について発表します。その後、全体で語り合う場をもちます。 会場: A7棟 自習室(交流センター隣の建物です。)

### 3. 全体総括

16:10 ~ 16:20

#### 活動助言者 紹介

今年度のチームの活動をこれからに生かしていけるよう、事業を客観的にみていただき、各チームの活動に対してのアドバイスをさせていただきます。

#### 膽吹憲吾 氏

(米原市社会福祉協議会 ソーシャルワーカー)

滋賀県立大学大学院在籍中、NPO 法人五環生活に関わり、NPO のしなやかな地域での動きに感銘を受ける。2009年4月より、滋賀県内の市民活動・NPOを支援する淡海ネットワークセンターに勤務し、様々な団体の設立・運営相談を経験。主に地域プロデューサーが育つ塾をコンセプトとした「おうみ未来塾」の事務局を担当。5年の任期満了に伴い、ふるさと米原市で2014年4月より現職。米原市ボランティアセンターに勤務し、地域の支え合いネットワークづくりを担当する。コミュニティ・アーキテクト(近江環人)、NPO 法人環人ネット 理事。認定ファシリテーター。

#### 竹岡寛文 氏

(フリーランサー)

2004年春、滋賀県立大学OGとともに「とよさと快蔵プロジェクト」を設立、初代表。他にもいくつかの近江楽座プロジェクトに関わり、2006年近江楽座学生委員会の立ち上げに参画。2009年滋賀県立大学大学院環境科学研究科修了、近江環人称号取得。2009年より(株)バード・デザインハウスで、大阪を拠点として関西各地で農産品のブランド化や地域活性化支援など公共性の高い事業や地域に根ざした活動に関わる企画・デザインを行ってきた。2014年3月に退社、滋賀・京都・大阪を中心に take-co-mai(タケコマイ)の屋号でフリーランサーとして活動している。

#### 活動成果展示会を行います!

20プロジェクトの「活動成果展示会」を4月19~25日に交流センターホワイエで行います。活動発表だけでは伝えきれない各々のプロジェクトの成果をぜひご覧ください。



# 守ろう！琵琶湖の在来種



## ？滋賀県大 BASSER'S って？

滋賀県立大学の学生団体「滋賀県大 BASSER'S (バサーズ)」は琵琶湖の外來生物問題に学生として何かしたいとの思いから、釣り好き、魚好き、生き物好きな学生が集まって発足した。学生として他の学生や地域へ働きかけ、地元の水域環境を守ることを目的としている。主な活動は、琵琶湖の内湖における月2回ほどの外來魚駆除と在來魚類のモニタリング。獲った外來魚はできるだけ胃の内容物や耳石による年齢の確認も行なっている。そのほか、外來魚駆除釣り大会やお魚採りイベントの自主開催、学生向けの勉強会や県と連携した活動、大学祭でのブース出展もしており、地域との連携、活動の展開が期待されている。



←お魚採り活動の様子



→お魚観察会

二〇一三年六月三十日、滋賀県大 BASSER'S では、地域の人に川遊びの楽しさを知ってもらうため、また生き物に興味を持ってもらうために、「お魚探検隊」不飲川(夏の陣)という魚とりのイベントを彦根市不飲川(のますがわ)にて開催した。

開催当日、予想以上の暑さの中、十九人も参加者があった。川遊びについてのレクチャーの後さっそく川に入り、足元がどろどろになりながらもタモ網を使ってガサガサ…。すると網にはたくさんの生き物が。子供に負けじとお父さんたちも頑張ります。川遊びには大人も子供も関係ありません。巨大なドンコやフナ、コイの稚魚など、計十二種類の生き物を捕まえることができた。小さいながらも外來魚の姿も…。初めて参加した人からは、「思ったよりたくさんいた。」十月に開催した前回は「思ったよりたくさんいた。」十月に開催したのが採れた!」といった感想が出た。

活動後にはお魚観察会を開き、採れた生き物をじっくり観察し、生き物の面白さについて知った。川ガキ、川オヤジともいわいと楽しんだイベントであった。

お魚採り「夏の陣」は  
楽しくてあっという間

## 楽しい? つらい?

### 神上沼一秋の当歳魚駆除

二〇一三年十月、滋賀県大 BASSER'S の神上沼定例駆除活動にて。在來魚では、希少なニゴロブナ、ビワヒガイ、ハスなどが確認される嬉しい結果に。一方で、オオクチバスは、春季に稚魚の駆除に失敗したツケか、二回の調査で計二〇〇匹近くの当歳魚(その年生まれ)の〇歳の魚を捕獲。これら外來生物が希少在來種と一緒に生息しているという現実を改めて突きつけられた。

しかしながら、どれだけ網を投げても捕れるこの当歳魚。捕っているときは非常に楽しいのである。当日確認されたオオクチバスは、二回の調査によりほぼ駆除されたと考えられる。



→駆除された外來魚

しかし、楽しいのもつかの間、大学に持ち帰った大漁のオオクチバスはデータ採取のために解剖しなければならぬ。きつと、この短期間でメンバーの解剖の技術は格段にレベルアップしたであろう。

## 地域の声

週末に、神上沼で網を投げている姿をよく目にし、精力的に活動していると感じます。数年前までは外來魚でいっぱいだった神上沼も、最近では在來魚が増えてきていると聞き、昔からこの場所をよく知っている者にとっては、嬉しい知らせです。

普段の活動に我々が参加するというのはなかなか難しいですが、イベントの広報などで協力させてもらいました。秋のイベントは残念ながら中止になってしまったようですが、楽しみにしている子供たちもいるので、来年度以降もぜひ継続して欲しいと思います。

薩摩町自治会長 山本 清

一年を  
振り返って

今年度は、環境科学部以外にも、人間文化学部の学生も積極的に活動に参加した。このことは、我々の今後の活動において、新たな強みとなってゆくであろう。

活動では、滋賀県大 BASSER'S の定期開催イベントの他にも、他団体が開催したイベントに参加した。このことで、滋賀県内はもちろん、大阪の人との交流もあった。活動を通して、様々な人との交流があった一年であった。

一方で、活動は前年度までのものを踏襲したことが多かった。来年度以降は、新企画などを取り入れ、より充実した内容のイベント開催など、さらに発展した活動を行っていききたい。

代表 北野 大輔



キッズ学芸員  
プロジェクト

# 西の湖の自然発見！！ワークショップ

2013年は琵琶湖がラムサール条約に登録されて20年、西の湖が5年という節目の年でした。そこでわたしたちは、自分の身近にある自然の大切さをもう一度考えてみようということでこのワークショップを企画し開催しました。

## ◎西の湖の自然を発見しよう！

午前には外に出て西の湖の周辺をまわり、そこで見られる葦や野鳥を観察したり、協力していただいたエコキャンパスプロジェクトの方々の説明を聞いたりしました。写真からもわかるように、間近で葦を見ることができましたし、たくさんの野鳥も見つけることができました。参加者のみなさんだけでなく、わたしたち学生にとっても、はじめての体験になりました。



葦について説明している様子

## ◎発見したことをまとめよう！

午後は午前中に観察したこと、聞いたことを西の湖周辺ののマップに生き物の写真を貼ったり名前を書き込んだりしていきました。みんなで、「ここでは何が発見できた？」や「ここにはコガモがいたよね！」などと楽しく話しながら作成していきました。完成したマップにはたくさんの生き物の名前や写真が張られとても賑やかなものができました。マップを作成することで西の湖の自然の豊かさ、魅力を改めて感じることができました。また、自然を大切にしようという意識も高まりました。



完成したマップとともに記念撮影

DIG'S  
新聞

2014 年（平成 26 年）  
3 月 31 日  
月曜日  
DIG'S  
ART FORUM 2011 DIG'S  
—近江八幡市を掘り出せ—

### ワークショップの流れ

11 月 24 日 午前  
◎西の湖の自然を発見しよう！  
西の湖周辺をフィールドワーク、  
生き物について説明を聞く

11 月 24 日 午後  
◎発見をまとめよう！  
フィールドワークで発見したことを  
地図に書き込みまとめる

## あの日の思い出は何色？ 記憶のジュエリーを作ろう

NO-MAさん主催合同ワークショップ in DIG'S

アール・ブリュットを発信する市内の美術館「ボーダレス・アートミュージアムNO-MA」さんが「対話の庭 Dialogue of Garden まなざしがこだまする」という展示会を開催しました。DIG Sはその一環として行われたワークショップ「あの日の思い出は何色？記憶のジュエリーを作ろう」にスタッフ兼ワークショップ参加者として加わりました。

最初はNO-MAさんのところで作品を鑑賞したり展示会の出展アーティストである林智子さんのお話などをお聞きしました。そのあとは、DIG Sに移動し、ワークショップを行いました。グループで対話をしながら、自分たちが体験してきた涙の物語や涙の色について考え、それを寒天でジュエリーという形に留めました。たくさんの色、感情のこもったジュエリーができ、一人ひとりいろんな涙の思い出があったように感じ、昔のことを思い出すきっかけともなりました。



## 2013 年度の成果と課題

2013年度は、「西の湖」をテーマと決め、9月の八幡掘りまつりのワークショップ、11月の西の湖のワークショップを行い、一年間を通して活動することができました。また、参加していただいた方にも楽しんで学んでいただけたと感じます。

しかし、自分たちでテーマを決め、ワークショップを企画から開催まで行うまでは、うまくいくことばかりではありませんでした。どうすれば楽しく学んでもらえるか、どうすればわかりやすく伝えることができるかが一番の課題で、決定するのに時間がかかりました。そして何度もみんなで集まってミーティングを重ね話し合うことで、自分たちの納得いく、楽しく学べるワークショップを開催することができました。

今後は、さらに地域の方々関われることを考えたり、地域のイベントに積極的に参加し、わたしたちの活動を知っていただくとともに、わたしたちが主体となってこの近江八幡の魅力を発掘し発信していきたいと考えます。

## 八幡掘りまつり

毎年9月に近江八幡では、地域住民と観光客に市内の魅力を伝えることを目的に2日間まつりを実施しています。夜間には、八幡堀とその周辺の路上や施設をロウソクの灯で照らします。

### カフェ営業



カフェ営業では、まつりの時間に合わせて営業時間を延長し、まつり限定メニューも考案しました。観光客や地元の方などが休憩に立ち寄って動を伝えるだけでなく、お客さんと町屋や市内の魅力を語り合う意見交換の場ともなりました。

### ほっこり灯りワークショップ



このワークショップは後の11月に行われる「西の湖の自然発見!!」ワークショップに先がけて開催しました。西の湖の生き物について知っていただくということで、生き物を表現して灯りともしました。生き物を自分の手で書いて、はり絵で表現することで細かいところまで目が行き、ただ図鑑を見るだけでは見られない発見があったりしました。大人から子供まで、多くの方々に楽しんでいただき、西の湖について少しでも学んでいただけたかと思います。



### DIG'Sのちょこっと自慢！

DIG Sは地域の方々に貸しスペースとして  
利用していただけてます！  
毎週金曜日に「ひつじぐも」さんが  
カフェ営業をしていました。



# カヤネズミの巣発見！

「カヤネズミの巣をみつけた！」  
そこにはスキの茎に草の葉を編んだボール状の巣が1つ。カヤネズミの夏の住みかです。



かつてはあちこちの川原や田んぼで見かけたが、開発などにより絶滅の危機にさらされています。しかし、伊吹山には手つかずの自然が残っています。昨年11月に行われた茅刈イベントでも巣が複数ヶ所で発見されました！

巣の分布状況や様子などは、カヤネズミの生態研究者に情報提供しています。

あなたも来年、カヤネズミに会うのは無理(笑)でも、カヤネズミの巣に会いにきませんか??

## プロジェクト自慢★

「刈ったどー( ^o^ )!!」  
そんな叫び声が聞こえてくるような1枚です。昨年11月に伊吹山で行われた茅刈イベントの風景。私たちは葺き替えだけでなく、次年度にむけた茅の刈り入れ・乾燥作業も行っています。この作業次第で、次年度の葺き替え作業は大きく変わります。丁寧に手入れされた茅は扱いやすく、茅葺きの屋根自体を長持ちさせます。私たちが刈り入れた茅は、現在県大の農場にあるビニールハウスで保管しています。冬のカラッとした寒気のおかげで、茅もきつとうまく乾燥してくれるはずですよ！



## プロジェクト紹介

今年で10年目のプロジェクト。私たちは彦根市男鬼地域での民家を中心に、茅葺きの技術を継承していこうと活動しています。今後も他地域へと活動を広げ、様々な人と交流して活動のヒントを得たいです。

## 地域の声

城楽直さんは築150年を超える余呉型民家を所有されています。直さんが子どもの頃は茅葺きの技術を持つ人が大勢いたため、葺き替え作業は地区の住民だけで行われていたそうです。継承者が減ったあとも新旭やマキノの方に依頼してきましたが、依頼する人もいなくなっていました。直さんは結婚を期に近くに家を新築、その後もご両親が古民家に住まわれていましたが、高齢のため4年前に直さんと同居をはじめ、空き家になりました。昨年9月の城楽邸葺き替えイベントには、直さんとご長男に参加していただきました。

「この家に少しでも恩返しができる」と意気込むお二人。家にまつわる思い出などもお話しいただきました。「住んでいた当時は古い家に見向きもしなかった」と直さん。作業をされているうちに「この作業には日本人の住の原点がある」と感じられたそうです。私たち男鬼楽座の活動に対し、学生が日本の原風景に溶け込み、それを後輩たちに伝えていくことはとても価値があるという言葉をいただきました。このような声を励みに、これからもがんばりたいです。

発行：男鬼楽座

## 成果と課題

職人さんから多くの技術を学び、周りの人と教えあうことで活動の目的としている技術の継承ができたと思います。イベント後には毎回反省会を開き、「今何をすべきか自分で考えて動く」という考えをメンバー全員で共有できました。ただブログだけの告知活動となり、地元の方の参加がなかったので、来年は広報活動にも力を入れたいです。



信楽の魅力を引き出し、発信！

信楽の散策路で窯元や職人さんと一緒に信楽の魅力を発見し、信楽焼やタヌキにちなんだ、信楽でしかできないようなことでイベントの企画を考え、地域のイベントに参加しています。窯元からの依頼を学生ならではの視点で問題解決に取り組み、まちを盛り上げていきます。

## 活動報告



陶ピース作りに参加しました！

4月に行われたイベントで使用する陶ピースの製作を行いました。陶ピース作りはワークショップ形式で信楽人以外の人にも協力してもらい、約300個の陶ピースを作りました。また、おかみさん会の人たちと一緒に狸型案内板も作りました。

## ぶらり窯元めぐり

窯元散策路で毎年行われているイベントに参加させていただきました。イベント時にはイベントを盛り上げるためにワッフルを販売しました。初めての試みだったので不安でいっぱいでしたが、何とか約100食分販売することができました。また、散策路は複雑なため道に迷いやすいという問題をかかえていたので今回散策路を訪れた人たちに調査を行いました。3月に製作のお手伝いをした陶ピースも陶ピースラリーで大活躍でした。狸型案内版の設置も完了しました。



窯元 de アートな野点

おかみさん会主催の野点に信楽人がお手伝いとして参加しました。お茶会は大盛況で100人以上来てくださりました。実際にお手前も体験させていただき貴重な体験をさせていただきました。

## まちなか芸術祭準備

10月に信楽で開催される信楽まちなか芸術祭にむけて準備を行いました。イベント当日に販売するワッフルの試作・芸術祭のイベント「THE TANUKI」に出展させていただいたたぬき(右)作り・器づくりなどを主に行いました。ワッフルは何度も試作を行いました。たぬき作りも一度目は失敗二度目の製作でやっと成功しました。一つ一つの作品を作ることがどれほど大変なことが実感させられました。

## 信楽人 Q & A

なぜワッフルを作りはじめたの？

散策路に食べる場所が少なく休憩できず軽食をとれる場所がほしいとの要望があり、手ごろにたべられるワッフルを作りました。これが好評であったので大きなイベントの時には販売をさせて頂いています。

おかみさん会って？

信楽散策路にある窯元のおかみさんたちの会。お茶会、陶ピースでアクセサリーを作ったり様々なことをされています。

散策路の魅力は？

散策路では、お店で買うのとは違って、各窯元さんの「日常」を体験することができます。作品ができていく姿をみたり、作家さんとお話しできたり、もっと信楽焼き、信楽のことが好きになれます。



## 第二回信楽まちなか芸術祭開催！！

「陶とまち」-発見と創生- をテーマに第二回まちなか芸術祭が行われました。「信楽のありのまま」を伝えるために信楽に住む住人自らがこの芸術祭を盛り上げる、まちなかを散策して楽しめる企画やイベントが会期中にまちなかの各所で行われた。地域に根付いた活動をしている私たち信楽人もワッフル販売を行い、イベントを盛り上げました。ぶらり窯元めぐり同様たくさんの方がワッフルを購入してくれました。また夏休みに制作したたぬきと器の展示も行われました。



## とよさと快蔵プロジェクトイベント ミツマルシェへ参加

とよさと快蔵プロジェクト主催のイベント「ミツマルシェ」に信楽人も参加させていただきました。信楽の窯元さんから買い取った陶器とワッフルを焼いて販売しました。たくさんの方がイベントに訪れ、盛り上りました。

## 2014年ぶらり窯元めぐりの準備

今回は散策路を案内する「歩くインフォメーション」としてイベントに参加します。そのために散策路があるき、散策路の魅力を確認しました。また今年も陶ピースラリー用の陶ピースの制作も行いました。

## 成果と反省

今年度は二回生と一回生が中心で上回生がいない状態で信楽人がどのように、何を目的に地域と繋がりが、どのようにして活動していけばよいかわからないという現状があった。そこで今までの先輩が築いてきたものを知り、散策路をどんな人がどんな思いで盛り上げようとしているのかを知り、地域の人と関わり、深く繋がっていくことを重視して活動を行った。その結果、おかみさん会のイベント、信楽の火祭り、コンサートの参加のお話なども頂くことができました。そして、活動場所の関係上他の近江楽座と交流することができなかったが、とよさと快蔵プロジェクトさんの「ミツマルシェ」に参加させて頂いた皆さんの楽座と繋がることができました。そしてメンバーひとりひとりが散策路についてわからないことで活動に影響の出たことがあったため改善していきたいです。またブログの更新なども今後、たくさんの方に活動をしてもらうために積極的にこなさおうと考えています。

3月後半

4月 12.13.14日

5月 25日

8月～9月

10月 1日  
～ 20日

11月

3月

# かみおかべ 古民家活用計画 —SLEEPING BEAUTY—

## 壁塗りWS開催!

6月29日・30日の2日に渡り、「壁塗りWS」を行いました。参加者はなんと12人!今回は仏間である8畳間と居間の6畳間の壁を塗りなおしていきましました。まずは壁に飾られていた絵や写真を外し、汚れてほしくないところに養生テープを貼りました。その後あく止めをし、崩れそうな壁面の修復を行いました。そして下地塗りへ。1日目はあく止めと下地塗りで終了。

2日目はいよいよ本塗りの作業へ入ります。作業人数は5人と前日に比べて少なくなりましたが、順調に塗り進めていくことができました。仏間の一番広い壁には、遊び心として葉っぱで型を付けた模様を入れてみました。

作業当日、参加したみなさんは暑い中本当にお疲れ様でした。なかなか体験できない壁塗りの作業は大変なこともありましたが、みんな楽しんで塗れたと思います。今後もメンバーで協力し合い、改善を進めていきたいです。

## かみおかべSBB ってなあに?!

滋賀県彦根市上岡部町にある古民家をお借りして、

- ・ 古民家の改修
  - ・ イベントの開催
  - ・ 畑の運営
  - ・ 地域行事への参加
- を通して地域活性化を図る近江楽座のチームです。地域と学生、学生と学生同士を繋ぐ場の形成を目指しています。



## 収穫、そして食卓へ!

かみおかべSBBでは初めて畑で収穫したさつまいもを使った食卓イベント「もぐもぐごはん会」を開催しました!具たくさんさんの豚汁、さつまいもごはんは大好評でした。かみおかべの庭で取れた野菜をかみおかべで食べる。まさに「地産地消」ですね。かみおかべでは今後も畑で野菜作りを続け、食卓イベントに活用していくつもりです。

## 地域の方の声

気軽に歩いて行ける、行くと学生さん達が子どもに話しかけたり遊んだりしてくる、さらに手作りのお料理まで頂ける。イベントの告知がある度に、子どもと楽しみにしています。これから、ますます親しみやすい場所になるよう、期待しています!  
(上岡部在住・大西さん)

## 一年間の成果と課題

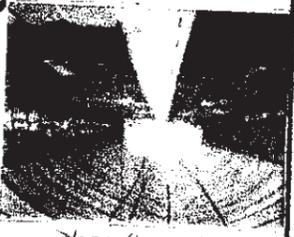
今年度一番の成果は母屋の壁塗りと畳の入れ替えが完了したことである。この空間を整備することにより、交流の場の拠点としての活用がしやすくなったと言える。反省点としては、改修活動などの際の人数確保に苦労したということである。今後、スムーズで的確な活動を行うために、計画性を持つ必要がある、それを実現するための体制作りが重要である。プロジェクトメンバーの代替わりのこの時期、2年間の反省と経験を生かした体制作りを目指したい。



プロジェクトの紹介

「とどさらだ」とは?

プロジェクトの目的は、  
 地域住民の生活改善と  
 環境保護の推進です。  
 具体的には、  
 1. 地域住民の生活改善  
 2. 環境保護の推進



(写真) 田舎の風景



(写真) 田舎の風景

プロジェクトの目的は、  
 地域住民の生活改善と  
 環境保護の推進です。  
 具体的には、  
 1. 地域住民の生活改善  
 2. 環境保護の推進

プロジェクトの目的は、  
 地域住民の生活改善と  
 環境保護の推進です。  
 具体的には、  
 1. 地域住民の生活改善  
 2. 環境保護の推進

プロジェクトの目的は、  
 地域住民の生活改善と  
 環境保護の推進です。  
 具体的には、  
 1. 地域住民の生活改善  
 2. 環境保護の推進

月	内容
11月	「湘風」出版 (9.10日)
10月	「湘風」出版 (9.10日)
9月	「湘風」出版 (9.10日)
8月	「湘風」出版 (9.10日)
7月	「湘風」出版 (9.10日)
6月	「湘風」出版 (9.10日)
5月	「湘風」出版 (9.10日)
4月	「湘風」出版 (9.10日)
3月	「湘風」出版 (9.10日)
2月	「湘風」出版 (9.10日)
1月	「湘風」出版 (9.10日)

# 東日本大震災から3年



東日本大震災から三年がたち、一区切りとして二〇一四年の三月一日に活動拠点である宮城県南三陸町歌津田の浦地区の交流センターにてキャンダルナイトを行った。メンバーを中心に約五〇〇個のキャンダルを用いて、文字や絵を描いた。イベントには多くの現地の方が参加してくださった。キャンダル作りのワークショップを行い、近江牛うどんを振る舞った。現地の方にとっても喜んでもらえたようだった。被災地はまだまだ復興が進んでいない地域もある。今私たちが活動をしていきたいと思います。

三年目の3・11にキャンダルナイト開催！

田の浦ファンクラブ学生サポートチームとは...

田の浦ファンクラブ学生サポートチームとは、被災地である宮城県歌津南三陸町田の浦地区を訪問し、復興をサポートする近江楽座である。現在は復興も進んで田の浦の人々の生活も安定してきており、まだ仮住宅暮らしの人は大勢いるが、少しずつ建物の再建も進んできている。田の浦ファンクラブ学生サポートチームは今年度から近江楽座として活動し始め、『よぶ・いく』『つなぐ』のキャッチフレーズを事業の主な目的として掲げている。また、活動によって期待される効果としては①復興まちづくりの推進、②田の浦の支援者の増加、③滋賀の防災まちづくりに貢献、を挙げている。主な活動としては、田の浦のことを滋賀の人々に伝えて支援を呼びかけ、実際に田の浦を訪問して田の浦に人を呼び寄せるための交流イベントを企画・開催した。また、田の浦の漁師さんを滋賀にお呼びして被災体験や現状を語ってもらい、より多くの人に知ってもらおうための防災シンポジウムを行った。

## 近江楽座 ST交流推進プロジェクト

(S a i g a i & S h i g a ) ( T a i s a k u & T a n o u r a )

### 田の浦ファンクラブ学生サポートチーム

顧問 鵜飼 修  
(本学教員)  
代表 広瀬 優樹  
(環境科学部)



ボランティアではなく「活動させてもらう」という考え

田の浦の方の声  
震災による津波がものすごい速さで押し寄せてきて、五十五軒が被害に遭った。当時の漁師全員が海の仕事をしなさいと言ったが、三年間でここまで復興したことに驚いている。海の運動会は最高だった。みんなが学生の企画するイベントを楽しみにしている。学生が来てくれることがうれしい。  
(田の浦契約会・会長 佐藤久次)

### ちよとときいてよ！プロジェクト自慢

私たちは田の浦ファンクラブ学生サポートチームの自慢は、学生同士の仲がいいこと、いつも笑いが絶えない近江楽座であることである。宮城県の田の浦地区を訪れた際は現地の人と交流することが楽しく、笑いながら話を聞いていると現地の方から「学生さんたちと話していると元気がもらえる」と言っていた。イベントを行うときは、私たちが楽しむことが相手に楽しさを伝えられる一番の方法だと思う。これからもこの自慢を残していきたいと思っている。

1年間の活動を通して私たちが得られたものは、1人1人の社会スキルアップとさまざまな知識、被災地への思い、現地の方からの信頼などである。田の浦に初めて訪れて、今までの被災地への印象はがらりと変わった。近江楽座を始めたときは、被災地に何か「してあげたい」という考えだったのだが、実際に訪れて現地の人と交流していくうちにその考えがおこがましいものだと気づいた。今では「させてもらう」気持ちでイベントなどの活動を行っている。田の浦の方々はとても暖かく、私たちに笑顔でいろいろなお話を教えてくれる。そんな田の浦の人々と交流していくうちに私たちができていることは何なのか真剣に考えるようになった。私たち学生ができることは限られているけれど、その中でどれだけ一杯できるかが大切なのだと思う。これからも田の浦とのつながりを継続し、またほかの地域への情報発信も行なって、繋がりを広げていきたい。





# 地域博物館だより

## 白谷荘歴史民俗博物館開館！



創立当初より「地域博物館プロジェクト」が目指していた「白谷荘歴史民俗博物館」がついに開館した。膨大な数の貴重な戦前の教科書・民具・古文書の中から選りすぐりの資料が、学生らの豊富な発想力とアイデアを凝らした展示方法で展示されている。楽座発足時より開館に向けて続けてきた活動の一つ、実を結ぶ形になった。プロジェクト代表である S 氏はこう語る。「やっと一つの大きな目標であった博物館を開館させることができました。しかしまだまだ教科書については全て整理できていないので、今後もご主人と相談しながら継続して活動していきたい。また各展示も一定期間で順次変えていくつもりなので何度も足を運んで、貴重な資料に身近で触れていただきたい。」

最近では地元のパソコンサークルの方々も教科書整理に参加している。こういった、活動を通して地元住民の方々も協力、交流できることも近江楽座としての活動の醍醐味であろう。また貴重な資料に触れることができ、地元住民と交流する機会が多い学生メンバーにも大変有意義な時間となっている。現在就職活動中のメンバー氏は「就活していく中でこの経験は大きな自分の強みになりますよ。博物館を作っている学生なんていませんからね(笑)。堂々と胸をはって主張できるのはこの楽座に入っている色々な経験をさせてもらっているからこそ。」と笑顔で語る。今後も地域博物館プロジェクトからは目が離せない。

### 地域博物館プロジェクトって??

このプロジェクトの目的は、民具や古文書、お祭などの「地域文化財」を活用して、「地域博物館」をつくることである。さらにその中で、地域の魅力を再発見することをねらっている。

現在の主な活動地は、高島市マキノ町の白谷荘民俗資料館、長浜市曳山博物館、彦根市高宮町不破氏邸宅、守山市下之郷町、ヨシ博物館の五カ所である。各地域で、地域博物館づくり、博物館展示のお手伝いをしている。

ちなみに、チーム名は「Student Curators (学生学芸員)」が本来である。英語が苦手な代表の陰謀でカタカナ表記になったともいわれている。

### 楽声人語

今年近江楽座は十周年を迎え、創立された団体の

はゆうに60を超えた。ここで考えるべきは、その大多数は消滅していることだ。しかしこの消滅は悪いことではない。

われわれ近江楽座の団体は地域からのニーズによって存在意義が発生する。消滅したということは、その地域からのニーズが無くなり、団体の役割を終えたということでもある。学生などの力を借りずに地域が活性化するのは喜ばしいことで、活動が継続することにそれほど重要性はない。

長期的な視野で、確固たるニーズと理念があつて長く続いている団体もあるだろうが、ただ学生が活動したいだけになって団体は無いだろうか。本当にその活動に意義はあるのか、学生の独りよがりの活動になっていないか。

近江楽座十周年は長く続いたことを喜ぶだけではなく、活動の意義を学生側も運営側も自らに問いなおす機会とすべきである。今後も有意義な活動が出来る団体が増え、近江楽座のますますの発展を願ってやまない。

### ちょっと聞いてよ！プロジェクト自慢！

#### 他ではできない体験ができる！

貴重な資料に触れることができたり、博物館の裏側に潜入できたり・・・

#### いろんなところに行ける！

現在五カ所、滋賀県内の広い範囲で活動しています



### 成果と課題

今年度の活動においての成果は、トップニュースにあるように、なんといつても白谷荘歴史民俗博物館の開館である。学生らに加え先生方にも多くのご協力いただき、館長からも感謝の声が寄せられている。

その一方で課題となつたのは、学生の人手不足である。スケジュールが合わず活動になかなか人が集まらない、活動の日や場所によって参加人数にばらつきがある、などの問題がよくみられた。安定した人手を確保できるように、今後努めていきたい。

### 地域の声

膨大な古文書・教科書・民具等を前にどのようにして維持をしたらよいのかと困っていたところ、大勢の学生さん・先生方にご協力いただき非常にありがたく思っております。

夏は暑い炎天下の中で汗と埃とすすで真っ黒になりながら作業、寒い雪の降りしきの中で手を真っ赤にして寒さに震えながら作業を進めてくださいました。このような活動が周りの皆さんに当館について、より関心を持っていただくことに繋がり、単に民具等の整理・展示・建物の維持保全だけでなく、地域のコミュニティー・観光への広がり・地域文化への保全へと広がっております。

学生の皆さん、先生方の指導協力のもと、湖西地域の博物館として、より地域にねぎしたものにして、忘れ去られようとしている地域文化を守り、さらに地域の交流の場になれるようになればと考えています。県立大学の大勢の学生さん・先生方には本当に感謝しています。

白谷荘歴史民俗博物館 川島光男さん

# 木興プロジェクト

## 「田の浦地区 地域交流の場の施設」を増築する



増築前の敷地

### 地域交流の場の整備 13.3-8 きっかけ作り

地域交流の場は津波で流されたため何もなかった。地元の人々が集まるきっかけとして、ハーブ園、ピザ窯、かまどベンチを制作した。

ピザ窯、防災ベンチはイベント時にピザを焼いたり、バーベキューに使用して頂いている。

ハーブ園はハーブ植えワークショップを行い、地元の方々と一緒にハーブを植えた。地元の方がハーブ園を手入れして頂いたり、ハーブの他にトマトを植えていただいたり定期的に立ち寄って頂いている。また、イベント時に採ったばかりのハーブをピザにのせたり、ハーブティーを作ったりしている。

「集まる機会が増えた。」ということ地元の方々からよく聞く。そのことから地域交流の場でクリスマスパーティ、漁港で11月キャンドルナイトや海の運動会を企画した。

海の運動会では子供からおばあちゃんまで参加して頂いた。地元の方には「最高だべ、来年もしたいな」などのコメントも頂いた。このようなきっかけを作り地域の祭りになっていくことを期待する。また、定期的にピザパーティなどのイベントを集会所で企画し、集まる機会を作り多くの方が立ち寄ってくださった。

その交流を通して、津波や昔の田の浦などの話を聞けた。

### 広い屋内空間が欲しい(増築)

昨年度建設した地域交流の場の施設は八畳室内、十六畳室外であり、地元の人からは「もう少し広い居室が欲しい」「屋外だとやっぱり寒い」「鍋み物教室をしたい」などの意見を頂いた。

このことから、昨年度建設した地域交流の場の施設を増築することに話が進んでいった。また、集会所が選ばれることから差別化が必要だと思った。月に一度使われる集会所ではなく、「地元の方々が集まり鍋み物をする場所」「お茶を飲みながらおしゃべりする場所」のような日々の生活で使って頂ける地域交流の場にしたいということから話を進めていった。



### 実施設計・施工 13.7-10

#### 基礎工事

既存の基礎の周りにコンクリートを流しています。コンクリートは固まると修正が出来ないため、丁寧かつ素早く行わなければならない。

また、コンクリートの中に空気を入れないように棒で突き刺しています。こうすることで、固まったときに、きれいなコンクリートになります。



#### 建具

写真は木材の肌触りを良くしています。手が触れる場所なので念入りに行っています。

木の枠を2枚重ねて、ガラスの代わりに熱可塑性プラスチックの一種のポリカーボネートを間に入れます。透明の材料を使って建物の中を出来るだけ明るくします。

#### 木工事 - 切り出し・加工 -

木材加工の工具を使い、木材を切っています。先輩が後輩に教えながら、基本的に2人1組のペアになり作業をします。声を掛け合い、ペアの1人が木材を支えて安全に作業を行うように気をつけています。

この後、木材の腐食を防ぐため防腐剤を塗ります。



#### 木工事 - 建て方 -

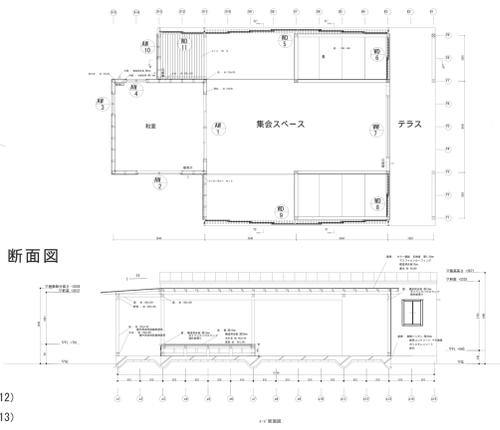
加工した木材を組み立てています。木材は重いので慎重に組んでいきました。柱や梁の水平と垂直を図りながら進めていきました。この後、垂木、屋根の作業が続きます。



敷地配置図

平面図

断面図



### 地域交流の場の施設増築完成 13.10

9月、10月にかけて地域交流の場の施設増築は完成しました。完成時には、今年も餅まきをしました。餅まきには多くの地元の方に来ていただき、大いに盛り上がりました。その後、炊き出しをして地元の方々との交流が出来ました。地元の人たちは私たちが来ることを楽しみにしてくださいます。私たちが出来ることを積み重ねていくことが大切だと思います。私たちと地元の方々が良いバランスをもった関係をこれからも築いていくことがこれから重要になってくると思います。



地元の方々餅まき

#### 「田の浦の人々との関係」

田の浦の今の生活を聞いたり、震災時の話を聞いたり、冗談を言い合ったり、とても良い関係を築けたと思います。また、田の浦に活動場所を与えてくださっているということに心こめて活動します。決して私たちが学ばせていただいていることを忘れていくことが大切です。



地元の方々と交流会



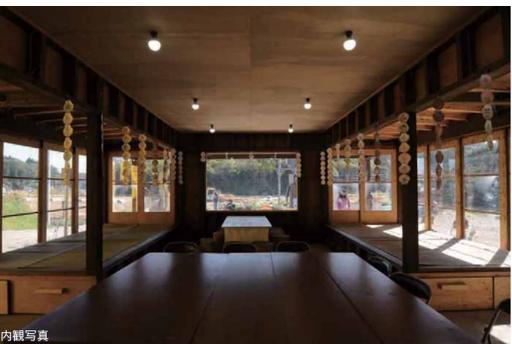
木興プロジェクトがデザインしたTシャツ

#### 地域交流の場の施設増築完成後改良

地元主催のイベントがこの地域交流の場で行われました。その際に舞台が必要となり、地元の大工さんが舞台を作ってくださいました。地元の方々使いやすいように改良を加えて使っていただけることが私たちの一番のうれしいことです。



増築後のイベント



内観写真



内観写真



敷地俯瞰写真



地元の方々と交流会



地元の木工さんが作った舞台

TTPが町の人からの依頼を引き受ける、「お手伝い引き受けますプロジェクト」が始動しました。今年度は、7月6日に多賀福祉会館で行われた子供会の七夕イベントにお手伝いとして参加させて頂きました。七夕飾りを作るお手伝いをした他、自分たちでオリジナルのクイズ大会や劇を行い、多賀の子供たちとも交流を深めることができ、子供たちにもTTPの活動を知ってもらういい機会になりました。今後もプロジェクトによってTTPの活動をより充実させ、多くの人にも知ってもらう機会にしていきたいと考えています。

# 01 ▶Big News 新プロジェクト始動!

## 色人図鑑プロジェクト

色人図鑑プロジェクトでは、多賀で働く方々に対して、その人が抱いている熱い思いや職に関してインタビューを行い、その内容を記事にしていくプロジェクトです。今年度はドーナツ専門店 WaKkaYa を営んでいる高木裕子さん、手芸教室ちくちく QUILT の先生をされている竹内綾子さん、多賀町有線放送アナウンサーの若松節子さんの3名にインタビューし、記事を作成しました。

## 八百秀アパートプロジェクト

八百秀アパートプロジェクトは、活動拠点である八百秀というアパートで様々なイベントを開催したり、庭の改修を行ったりするプロジェクトです。今年度は、特に庭の改修に力を入れ、庭へのアプローチの整備や災害時にも活躍できるかまどベンチの製作、そしてかまどベンチを使用するイベントを行いました。その他にも恒例の一箱古本市やこれまでのTTPの歩みを紹介する成長記録展などのイベントを開催しました。

## 有線放送プロジェクト

有線放送プロジェクトとは、昨年度から始動したプロジェクトで、TTPが多賀町有線放送で月一回5~10分のコーナー番組をやらせてもらうプロジェクトです。イベントの様子やメンバー内、あるいは町の人との対談など、TTPの活動に関する様々な内容の放送を行っています。多くの方に聴いて頂いており、TTPのことを知ってもらう一つの手段として機能しています。このような地域特有のメディアを持っているのはTTPの大きな特色の一つでもあり、今後も継続していきたいプロジェクトです。

## 各種イベントへの参加

今年度も、多賀町で行われる様々な行事に参加しました。春に行われる古例大祭、夏に行われる万灯祭といった多賀町の祭りに参加した他、今年度はあけぼのパーク多賀で開催されたあけぼのパーク多賀フェスタに参加し、そこで行われた古本市に出張版一箱古本市として出店したり、そばや糸切り餅の販売のお手伝いをさせて頂きました。こうしたイベントも、地域の人とコミュニケーションをとる貴重な場となっています。



# 02 ▶プロジェクト紹介 平成25年度の活動内容



# 03 ▶ちょっときいてよ!プロジェクト自慢 特技を活かせる!

TTPの活動は「八百秀アパートプロジェクト」、「色人図鑑プロジェクト」、「有線放送プロジェクト」、「お手伝い引き受けますプロジェクト」、そして様々なイベントへの参加といったように、多岐にわたっています。そのため、それぞれのメンバーが自分の得意なことや好きなことを活動の中で活かすことができます。たとえば、ものづくりが好きな人は庭の改修、文章を書くのが好きな人は記事の作成、人と話すのが好きな人は地域の人へのインタビューなどといったような、それぞれが自分の特徴を發揮できる環境が、TTPにはあります。また、自分たちのやりたいことを企画する事もできるので、積極的につづけられるというのも魅力のひとつです。



# 04 ▶地元の声 アツい!多賀の人々

今年度から始動した新プロジェクトの「お手伝い引き受けますプロジェクト」によって、新たな地域の人とのつながりができました。子供会役員の園田睦雄さんもその一人で、TTPに七夕イベントのお手伝いを依頼して下さいました。園田さんからは、「子供会にて、お兄さん、お姉さんに来て頂き、『楽しい劇』も楽しかったです。多賀町に大学生が入り、多賀町について思ってくれてる!地域の巻き込める人から、面白そうなどこから絡んでって下さいね。」というメッセージを頂きました。このような地域の人との新たなつながりは、大切にしていきたいものです。



# 05 ▶1年間の活動を通じた課題と成果 情報の共有を!

1年間の成果としては、新プロジェクトの始動によって子供会の方々と新たなつながりが増えたことが挙げられます。また、子供会に参加した多賀町の小学生にTTPの活動を知ってもらうきっかけにもなり、多賀町内でのTTPの知名度を高め、新たなつながりをもつことができたのは、今年度の大きな成果であると言えます。新たな人々とのつながりは活動の幅を広げるきっかけにもなるので、今後の活動においてもそうしたつながりを増やし、より幅広い活動ができるようにしていきたいです。今年度の反省点としては、メンバー全員が情報を共有できていなかったり、一部の人に負担がかかりすぎたりしていました。また、活動のモチベーションを維持できていなかったこともありました。こうしたことは、メンバー内でのコミュニケーションがしっかりととれていなかったことが大きな原因として挙げられます。活動の中で自分か苦しい時にそれを本音で言えるだけの関係がメンバー内で築けていませんでした。来年度は、地域の人々とのコミュニケーションはもちろん、メンバー内でのコミュニケーションも大切に、活動のモチベーションを維持させ、プロジェクトを円滑に進められるようにしていきたいです。



# ボランティアサークル Harmony 新聞

## \*チームのビッグニュース 〜ソーセージ作り〜

例年夏のお泊り会も際に、子どもたちと様々な体験活動を行っています。昨年度は、近江八幡に行き山登りをし、ロープウェイに乗りました。今年はブルー目の丘に行きました。そこでは、動物や大道芸を見たり、花畑を散歩したりしました。そして、メインイベントとして、ソーセージ作り体験をしました。ソーセージ作りは子供たちには難易度が高くとく作れない子供がたくさんいました。学生と協力することで、完成させることができました。できたソーセージは、夕食のバーベキューの際においしくいただきました。とができました。



## \*プロジェクト紹介

ハーモニーは障がい児・者とその家族、支援者などからなるNPO法人「障害者の就労と余暇を考える会メロディー」専属のボランティアサークルです。

メロディーは地域の人たちの理解の中で普通の生活をしたい、働きたいという障害者の願いを実現させるため、障害者の社会参加を促進

し、就労の自立を図るとともに余暇活動をはじめとした豊かで充実した社会生活を支援する団体です。ハーモニーというサークルの名前は、メロディーにハーモニーを奏するという意味でつけられたそうです。私たちはそんなメロディーに所属する四歳から二十二歳の他人とコミュニケーションをとることに困難が生じる自閉症やダウン症などの障がい児・者と、その兄弟とともに様々な活動をしています。

メロディーに所属する障がい児・者には色々な人がいます。学生は障がい児・者を相手にしていくわけなので、不安だったり、何をしたいのかわからなかったり、ということが起こります。ただし、メロディーの方から、「活動の中で、もしも何かが起こった場合には、すべての責任は私たちがとる、だから学生たちは、安心して積極的に活動に取り組んでください。」という言葉は何度もいただき、私たちはこれまで活動を続けてきました。

ハーモニーの活動は「自分からは楽しいこと面白いことを見つけて、それが苦手な子どもたちに、こんな楽しいことがあるのだからって感じてもらうお手伝いをしていただけませんか？」というお母さんたちの呼びかけから始まりました。そして十年以上ハーモニーの活動が続けられてきました。

私たちがメロディーはハーモニーの学生さんに十年以上専属ボランティアとしていろいろな活動でお世話になっていきます。福祉を学ぶ学校ではないのに私たちの活動に興味を持ってくれた学生さんが現在二十名ほどいてそれぞれに自分のできることを一生懸命に行ってくれています。



## \*地域の声

私たちがメロディーはハーモニーの学生さんに十年以上専属ボランティアとしていろいろな活動でお世話になっていきます。福祉を学ぶ学校ではないのに私たちの活動に興味を持ってくれた学生さんが現在二十名ほどいてそれぞれに自分のできることを一生懸命に行ってくれています。

私たちがメロディーはハーモニーの学生さんに求めていることは、自分たちが楽しい活動です。学生さんが楽しいことを障がい児・者のメロディーのメンバーが楽しむこと、そしてそれをメンバーの兄弟にも楽しんでもらい両親にも笑顔になってもらいたいと考えています。

メロディーの皆がハーモニーの手を借りることでより多くの人に会い、いろいろなところに行き、自分たちだけではなかなか出来なかったことをできるようになり、世界がもっと広がり成長へとつながります。最初は私たちメロディーが計画を立て準備をしていたのですが、学生の中で担当を決めてくれ任せられるようになりました。

来年度はお茶で使うお茶碗を信楽で作ってはどうかという学生さんからの提案もありました。私たち親はすぐにこの子たちにはできないとあきらめてしまいましたが、ハーモニーのおかげでやってみようと思えます。

ハーモニーの楽しそうな笑顔の中にメロディーのメンバーの自然な笑顔を見るといろんな人のかかわりの大切さをあらためて感じます。普通に楽しいことをあたりまえに同年代の人たちと楽しむ、そんな力をハーモニーからいただいています。

急に難しい作法を覚えるのは学生でも大変です。しかし、大切なのは作法を覚えることではなく、お茶を通してルールや協調性、思いやりの心を身につけることにあります。これこそ簡単にできることではありませんが、子どもの成長を継続的に見ることが出来るハーモニーであるからこそ可能なことだと思えます。

**\*ちよつと聞いてよ！  
プロジェクト自慢  
〜本格的なお茶会を目指して〜**

お茶会は定例活動の時に毎回行っている活動です。茶道には一連の作法があります。また静かにして正座しなければなりません。苦くてお茶を飲めない子も多く、子どもたちにとつてあまり楽しい活動ではないかもしれません。しかし、このような決められたことをすることで、協調性を身に付けたりできるのです。この時も学生が横について作業をすることで、何度もやっていくと自然と子どもたちはそれをまねするようになります。

しかし、これまでは、正しい作法を身につけている学生が少なかつたために、子どもたちにもきちんとした作法を伝えることができませんでした。そのため今年二人の学生が三か月間お茶の先生のもとに通い、正しい作法と子どもたちへの指導法を学びました。

来年度では、二人が習ったことを他の学生にも伝え、学生みんなが子どもたちに指導できるようにすることを考えています。まずは、お茶会の雰囲気を変えることから始めていきます。これまでの騒がしい落ち着いた状態から、静かで緊張感のある空間を学生が作りだし、子どもたちがそれをまねするように回数を重ねていきたいと思えます。

まず最初に成果に関して、今年度は、学生の意識改革ということに重点を置き活動しました。ハーモニーは十年以上活動の続いている団体です。しかし、長い間活動してきたことで活動がマンネリ化し、事業を行うことが事務的になってしまったり、どのような目的でこの団体が作られたのか、一つ一つの事業が行われているのかということを理解せず、なんとなく決められた仕事ができたりしています。そんな状況では、学生の成長という面でハーモニーの存在があまり意味をなさないものとなってしまいます。そこで、今年度はなぜ、私たちの活動が行っているのか、ということをもメンバー内で共有することで、一人一人の学生に私たちの活動の意義を理



## \*一年間の活動を通じた 成果と課題

まず最初に成果に関して、今年度は、学生の意識改革ということに重点を置き活動しました。ハーモニーは十年以上活動の続いている団体です。しかし、長い間活動してきたことで活動がマンネリ化し、事業を行うことが事務的になってしまったり、どのような目的でこの団体が作られたのか、一つ一つの事業が行われているのかということを理解せず、なんとなく決められた仕事ができたりしています。そんな状況では、学生の成長という面でハーモニーの存在があまり意味をなさないものとなってしまいます。そこで、今年度はなぜ、私たちの活動が行っているのか、ということをもメンバー内で共有することで、一人一人の学生に私たちの活動の意義を理

解させより充実した活動が行えるように努力しました。そのために、昼休みを利用して勉強会を開きました。また普段の活動や、メンバー同士で食事をする際などに個々にハーモニーの活動について話していきましました。そうしていく中で、活動に対する理解は、この一年間で一定の成果を得ることができました。また、本格的なお茶会を行うための準備や、学生よりも年齢の高いメロディーの障がい児・者の呼称を「くん」から「さん」に変えるということができました。

課題としては、情報発信があげられます。クリスマスコンサートのチラシやポスター、新入生向けのチラシを作り宣伝をするということは行いました。しかし、ブログやFacebookを利用した具体的な活動状況を外部へ発信するということができませんでした。

来年度は引き続き意識改革に取り組みつつ外部への発信をしていきたいです。意識改革については、今まではほとんどの事業がコアメンバーの教人で運営され、後の人は言われたことをやるだけとなってしまうので、受け身の立場の人にも運営側を経験させるということを考えています。また新入生向けの説明会を開ききちんと活動趣旨を理解してもらったうえで参加していただくことを考えています。外部への発信という面では、ブログの更新、クリスマスコンサートの際、ラジオ出演を考えています。また、今年度の卒業生から卒業後もハーモニーの活動に参加したいけど、いっ活動があるのかわからないという声があったので、何らかの形でO・B・OGの方へ向けた連絡もしていきたいと思っています。

# さんかいぐらタイムズ

## Three Storied-Storehouse Times



### プロジェクト紹介

三階蔵覚醒プロジェクトは、全国的にも珍しい三階建て土蔵、通称「三階蔵」を、地域資源として活かすべく立ち上げたプロジェクトです。

フィールドは滋賀県近江八幡市、旧八幡町。城下町に端を発する歴史あるこのまちは、八幡商人によって独自の発展を遂げてきました。現在も美しい町なみが残るこの地は、三階蔵を含む、複数の「江戸期三階建て建築」が残る、大変珍しいまちでもあります。

三階蔵を、旧八幡町の真の魅力、多くの方に三階蔵の存在を知ってもらいたい。

そんな願いから、旧八幡町で今なお眠れる三階蔵を覚醒させ、その魅力を発信しています。



### 地域の声

三階蔵覚醒プロジェクトの取り組みにより、旧西川家住宅三階建て土蔵を公開することができました。地域の歴史的財産として存在していた「三階蔵」の価値を再発見し、意味のあるものになったと思います。地元校長も見学し、子ども達が郷土に自信と誇りをもつ資料として、集会等での講話にも取り入れ、教育的にも活用を図ってほしいとの想いを聞きました。大学が地域に入ることにより、多くの地域力の課題発見につながりました。すなわち、そのことが成果ともいえます。今後、プロジェクトの拡大・深化やネットワーク化などにより課題解決を図り、地域活性化の拠点となる魅力の創出にむけた連携・協働を期待します。【近江八幡市立資料館 万野館長】



### プロジェクト自慢

A1版パネル、パンフレット、冊子…今年度、当プロジェクトからは様々な製作物が誕生しました。最も多くの手と時間を費やしたのが、そう、何を隠そう三階蔵の模型です。「なぜこんなものを作ることになったのか…」慣れない木工業が遅々として進まない中、切ったり彫ったり切り直したりしながらどれだけのメンバーが頭を抱えたことか。公開イベント当日、完成品を実物の三階蔵の前に据えた時の感動たるや。惜しむらくは、模型を飾るべく資料館から借用した台座が、模型より目を惹くような調度品であった点。でもそんなことは気にしない。うちの子（模型）が一番かわいい。メンバーの血と汗と涙の結晶、コピーがきかない世界に1つだけの模型は、どの製作物よりも輝いています（木製ですが）。



### ビッグニュース

三階蔵覚醒プロジェクトにとってのビッグニュースは、何と言っても「三階蔵サミット」の実現です！三階蔵所有者の方々をつなぐネットワークを構築することも目標としている当プロジェクトでは、なんとか三階蔵にゆかりのある方々を引合すことができないか、と考えていました。公開イベントに合わせて、お声かけをしてみたところ、なんと、東京と静岡から2組の三階蔵に所縁のある方がおいでくださいました！そしてなんと、お2組の初対面が、三階蔵の、三階で実現したのです。これほど三階蔵サミットにふさわしい場は他にありません。意見交換も兼ねた懇親会を開き、様々なお話をお伺いすることができた第一回・三階蔵サミット。共通のテーマ（ここでは三階蔵）をもつ、まったく異なる地域をつなごうという、もう一つの目論見において、今回のサミット実現はとても大きな一歩となりました。



### 成果と課題

三階蔵の周知という点では、想定をはるかに上回る来場者を迎えられたことで、初の試みとしては上々でした。フィールド（近江八幡）を越えた、共通のテーマ（三階蔵）をもつ地域の方にご参加いただいた点も、大きな一歩だと感じています。フィールドである近江八幡の中で、「旧八幡町」という地域が観光地として独立してしまっている現状を、どう変えていくか。新市街地と少し離れた立地であることも影響してか、地域住民にとっては少し遠い存在であることが、今回のプロジェクトを通してわかりました。

多くの人に、江戸期三階建て建築について知ってもらいたい、という思いから始まったこのプロジェクト。次なる目標は、地域の方に、「全国的にも珍しい、江戸期三階建て建築のまち」としての旧八幡町を意識してもらえよう、取り組んでいくことです。



# たけとも便り

特別号  
2014年  
3月31日



## 2013年夏 浜の会所竣工

### 浜に築いた竹の集会所!

竹の会所に続き、陶器・永井研究室で竹や土など地域の自然素材を用いて「浜の会所」建設する運びとなった。今回は気仙沼市本吉町の大谷漁港の海岸付近に建設となり、竹の会所同様、2年が経過しても半壊してしまった集会所の使用ができないということと域学連携プロジェクトという国のモデル事業の一環ということで行った。しかし、設計・施工をすることが決定したのは現地に行く1ヶ月前、設計も何もできていない状況からのスタートとなった。

設計の段階で大トラスや列柱、版築壁といった今までのノウハウを活かせない新しい取り組みも多かった。材料試験や構造計算、詳細設計など建築で学んだ知識をフルに活用してなんとか施工の準備が整うまでに至った。

も多かった。屋根と躯体を置くスペースの問題であったり、竹の不均一さから必要な部材が取りづらかったりなど敷を挙げれば限らない。それでも日程通りに建設し、落成式を迎えることとなった。そこには地域の方々の屈託のない笑顔、学生の達成した感動、2年前の竹の会所建設のときと変わらない地域との交流・学生によるものづくりという「たけとも」の求めるものがそこにはあった。



「子どもの日」「たけとも春祭り」

私たちは建築の学生であるということが生かされたお祭りであった。建築で学んだことを地域の子どもたちいかに体験してもらおうかということで、「橋をつくらう」という紙で構造的に面白いもの、デザインが面白いものを子どもたちの手で体験してもらおうという企画であった。そのほかにも写真展、小さな東屋の設計などを行った。人数は少なめであったが、地域の方からは「人数の大小ではなく、続けていくことが何より大切」という言葉をいただき、この活動を続けていく重要性を再認識した。

映画会開催 「たけとも秋祭り」

浜の会所竣工とともに「秋祭り」として開催した。午後の部では竣工を祝って地域の方々からは伝統芸能である「虎舞」を披露していただき、学生は様々な県から集まっていたのでご当地の級グルメなどを振舞った。フジテレビにも協力していただき、「海辺の朗読会」を行い、中々好評であった。舞台、集会所としての役目、そして何より「浜で休める場所ができた」という言葉が心に強く残った。午後の部ではフジテレビの協力のもと物語形式の「朗読会」を行っていた。

映画会開催 「笑顔の溢れる場所」

毎度、お馴染みの写真家の堀田真雄さんによる写真撮影会を開催し、親子連れの家族等の笑顔が多く撮影された。見ているこちらも自然と笑顔になれる、そんな瞬間だった。また今回は写真家の堀田さんと学生の製作で竹の会所自体に映像を投影する映画会を実施した。空間と映像を合わせた体験ができたため、子どもたちには印象的なものとなったと思う。

### 今後のイベント告知

2014年5月5日子どもの日に今年もたけとも祭りを開催します。興味のある方は是非、共に祭りを盛り上げませんか？

新入生、在校生、学部、学科問いません。

下記連絡先までメール等下さい。よろしくお祈り致します

主催 「たけとも - 竹の会所 - 友の会 -」

「竹の会所」住所：宮城県気仙沼市本吉町田の沢 110 番地

本部：滋賀県立大学 陶器研究室

連絡先：成尾 建治 Tel. 090-3948-7650

Mail. killswitch-engage.com@hotmail.co.jp

「たけとも」会員について

現在「たけとも」では会員を募集しています！

活動に興味がある方は、下記 URL をご覧ください！

facebook : <http://www.facebook.com/#!/Taketomo.takenokaisyo>



# バンデイヤ・ジ・オウロ新聞

# 外国籍の子どもに未来をバンデイヤ・ジ・オウロ

## プロジェクト紹介

私たちはバンデイヤ・ジ・オウロは在日の外国籍の子どもたちが将来の生活をよりよく送れるように、日本で自立した生活を送れるように学習支援を中心として活動しています。主な事業は3つです。1つ目は、市内の全小学校の外国籍児童を対象としたレクリエーション事業です。この事業では年々2回、外国籍児童交流会を開催しており、今年度は第3回外国籍児童交流会を開催することができました。

## プロジェクトを通じて外国人プロジェクトの秘密は人数にあり

プロジェクトの目標は何と云っても、国際教育委員会を仲介とした事業展開です。本年度の取り組みでは中央中学校における進学サポート事業、そして、国際児童交流会に際して、国際教育委員会人権教育課の方々と綿密に連携を行ってまいりました。また、そういった人権教育課との連携関係もあって、国際教育委員会人権教育課の方々からも夏休み・冬休み子どもクラブへのボランティアのお誘いを受けます。国際市の外国籍の子どもたちにはバンデイヤの活動を知らせてもらう上で、国際教育委員会の方々の力を借りることも



トントン相撲の動きを作る子ども

た。3つ目はコレジオ・サウナ（ヘラジロ人学校）とコレジオ・ペケル・ボレガル（ブルガリア人学校）におけるレクリエーション事業です。この事業ではサウナとペケルに通う子どもたちと様々なイベントを行い、子どもたちの居場所作りを目的としています。3つ目は、国際市立中央中学校における進学サポート事業です。この事業では、校訓後の時間を活用して、バンデイヤの学生が外国籍

の中学生の勉強をサポートしています。これら3つの事業の他にも、夏休み・冬休み子どもクラブへの参加、あおい企画への参加など様々な活動を展開しています。

## 地域の声

地域の声として、中央中学校での進学サポート事業においてお世話になった近江楽座学校日本語指導教員の平田千代子さんのお言葉を紹介させていただきます。

言葉にはC.C.S.世界の子どもたちをつなぐ学生の会がある。外国にルーツをもつ子どもたちの教育支援やエンパワメントの取り組みを行っている学生主体の団体である。このように団体がある元にもあればいいな、とずっと思っていた。なやなを、外国人児童生徒の一人ひとりは、国籍と生まれた国、また母国と育った国が異なることで抱えてしまう言葉や文化の壁だけではな

く、買っている両親とも半年齢の違うきょうだいもそのありようが異なるために、とても孤独を感じる。日本語が話せるようになると、親は子どもを日本語レベルがわからないから日本語を話してきていけど日本語なら大丈夫と思いき、学校の先生は生徒の音読がわからないから日本語は十分だけど母語なら大丈夫と思ってしまう。そのはさまらなくて、自分が何者かわからずに苦しんでいる子どもが少なくない。バンデイヤ・ジ・オウロが生まれたとき、私はそういう状況に一部の力が添って来たように感じた。あるがままを受け入れて、



七夕短冊作りの様子

## チームのビッグニュース

### 目が離せない交流会

2014年度のバンデイヤでのビッグニュースといえるのは、第3回目を迎える外国籍児童交流会！外国籍児童交流会とは、バンデイヤ・ジ・オウロと国際市教育委員会人権教育課が共同で行う交流会です。国際市内の全小学校の外国籍児童を対象として行われる本企画では様々なレクリエーション（楽しい、トントン相撲、輪投げ遊び、）を通して、外国籍児童の居場所作り、そして外国籍児童同士のコミュニケーション作りを目標として行います。さて、2014年1月に第2回を迎えた外

国籍児童交流会！子どもたちの参加人数は8人。実はこの数字、バンデイヤにとってはとても嬉しい数字なのです！なぜなら、第1回外国籍児童交流会の参加人数は4人、第2回も4人、そして第3回は9人！まさに子どもたちの参加人数は上がっています。さらに嬉しい事実が！なんと交流会に参加してくれる子どもたちの中には「前回は楽しかったから！」とリピーターになってくれる子どもたちもいました。

## 一年間の活動を通して

本年度も子どもたちを応援した事業は外国籍児童交流会です。本年度も第3回を迎えた交流会は回を増すごとに子どもたちの数も増えてきています。さらに教育委員会人権教育課とバンデイヤの連携も回数を増やし、交流会ごとの反省会や、交流会ごとの報告レクリエーションの質は高まってきています。本年度は小学校の2学期と3学期に交流会を開催しましたが、来年度からはさらに1学期での交流会開催も視野に入れていきます。申請時の計画では報告会を開催していましたが、教育委員会との交流会や外部イベント（夏休み・冬休み子どもクラブ）においてバンデイヤの活動を紹介することになりました。また校内でのポスター等も作りました。バンデイヤのメンバーの減少によって報告会を作るのが難しくなっていたので、まずは定期的な活動内容を充実させてつ

活動メンバーを増やしていきたいと考えています。勉強と部活に忙しい中でも、活動メンバーを増やした後に実施したいと考えています。中央中学校での進学サポート事業については、昨年度よりもバンデイヤと中央中学校間の連絡が円滑に行われました。しかしながら、メンバーの活動可能な日時と中央中学校が支援を求め日時が合わないため、進学サポートを行うことができませんでした。最後に、バンデイヤは今年度をもって近江楽座ではなくなり、来年度は別の形でバンデイヤ・ジ・オウロの事業を展開していきます。この一年間で学んだこと、ひいてはこの5年間で学んだことを最大限に生かしてこれからも外国籍の子どもたちの学習支援を行ってまいります。

# おとくらしぶん

2014年  
3月31日

## おとくら発足4周年

おとくらプロジェクトは発足四周年を迎え、当初の古民家改修は終わり、ギャラリー展示、コンサート等のイベント、カフェ営業も安定的に行えるようになってきた。今年度新しく増えた一回生メンバーはなんと八人！三回生五人、二回生七人の学生総勢人に加え、地域の方々にもお世話になり、大変にぎやかに活動できた。特に今年度の一回生は、様々な学科から集まったため、よりバラエティに富んだ企画が増えることとなった。ガラス細工や読み聞かせ会、掘り出し物市、新メニュー発売など、新たな風が吹き込まれたように思う。また、メンバーが増えたことから、夏の三ヶ所同時イベント開催、ラジオや

新聞の取材や、全国学生カフェサミット参加、他の学生カフェの訪問など新たなことにもたくさん挑戦できた。新年に代替わりも行われ、今後は二回生と一回生がおとくらの中心となっていく。さらによりよい活動、空間作りが行えるよう、楽しみながら頑張っていきたいと思う。



2014.01.31 ラジオしがスタ！に出演  
させいただいた。

## おとくらプロジェクトってなあに？

おとくらプロジェクトは、彦根市高宮町にある古民家を改修し、高宮町のコミュニティスペースとして、地域の人々との交流を深めるために活動している。高宮町は、旧中山道の宿場町として発達した歴史あるまちで、江戸時代から栄えてきた場所である。オーナーの加藤義明さんをはじめ、県立大学非常勤講師の中西茂行先生の指導のもと、学生の力で改修をはじめた。平成二一年夏に改修が終了し、現在も少しずつ形を変えながら受け継がれている。おとくらは『音』と『蔵』を組み合わせた造語であり、蔵のもつ、温かくて落ち着いた空気の中で、学生や地域の人々、作家さん、中山道を歩く人々などがつながり、交流する場所でありたいと考えている。蔵ではコンサートや読み聞かせ会など

のイベントを定期的で開催し、ギャラリースペースでは月ごとに様々な作家さんの素敵な作品が展示される。そして中央の喫茶スペースでは、交流の場としてつながりを広めている。



ギャラリーの様子。  
月ごとに様々なアーティストさんの作品を  
展示している。

## くらでのひととき

おとくらの拠点の「座・楽庵」(彦根市高宮町)には、蔵がある。高宮が中山道の宿場町として栄えていた江戸時代、この蔵のあった場所では特産品の布が販売されていた。その歴史ある建物が、滋賀県立大学の学生が提案した「音楽と人のつながり」をコンセプトに改修され、二〇〇九年に完成した。蔵の中にある楽器は自由に演奏することができ、音は喫茶・ギャラリーのスペースから蔵まで全体に響き渡る。

これ以外にも、この蔵の使い方はたくさんある。音楽関連では、アーティストさんの演奏の場として提供している。お客さんは、アーティストさんと目が合いそうなほど近い距離で音楽を楽しめる。また、ふだんこの場所は喫茶スペースとして開放している。注文を受けてから豆を挽くハンドドリッパー珈琲とともに静かにゆったり楽しんだり、こどもと一緒にトランプや絵本で遊んだり、もちろん親しい人とおしゃべりする場にもぴったりである。ギャラリーやイベントの場所に用いることもある。二〇一三年度の活動では、写真部の学生さんの作品展示や、演劇部の学生さんに協力を得た絵本の読み聞かせ会、新年に開催したガレッジセール場など、様々な場面で蔵を活用する機会があった。中山道を旅する機会があったら、休憩がわりにおとくらに立ち寄り、ぜひ

ひ蔵を覗いてみてほしい。



↑2014.1.11 新春掘り出し物市  
←2013.07.6-7 中嶋さんコンサート



## 新イベント & 新メニュー

この一年の成果は、一つ目はイベントを活発に行うことができ、地域とのつながりの場としての活動ができたことである。毎年行われている高宮サマーフェスティバルやクリスマスコンサートに加え、読み聞かせ会など、新しいイベントを計画し、行うことができた。また、イベントの前には広報に力をいれ、集客につなげることができた。二つ目は、コーヒーの豆の仕入れ先を彦根のお店に変え、豆の種類を増やしたり、食事のメニューを見直し、改良を行い、喫茶としてのおとくらの魅力を磨くことができたことである。おとくらのコーヒーは美味しい、と来ていただいた方に思っていただけのように、これからは改良・工夫を重ねていく必要がある。課題は、集客を維持することがまだできていないことだ。

## ギャラリー作家さんからのコメント

毎月のギャラリーを飾るのは地域で活動する方々だ。今回は、ギャラリーを飾っていただいたご三方からコメントをいただいたため、を紹介する。

「雰囲気の良い空間で学生も一生懸命頑張ってくれてありがたかったです。穏やかな平和な気持ちで開催させていただきました。また機会があればやらせてください。」(四月のギャラリーを飾っていたアーティストの眞野さんより)

「色々とお世話してくださいます。ありがとうございます。十年も前に押しした花色あせずにいれてくれてうれしく思います。これからも押し花額を作っていきたいと思えます。押し花にされた花達にもお礼を伝えておきます。ありがとうございます。」(五月のギャラリーを飾っていたアーティストの浅井さんより)

「一ヶ月楽しい時間を過ごせました。県大生の皆さんとても頑張っていてすごいかんじしました。これからもおとくら頑張ってください。」(九月のギャラリーを飾っていたアーティストの浅井さんより)

冬場はお客さんの数が減ってしまうため、どの季節も安定した集客力をもてるようにするためにはどうすればよいか考え、おとくらのメンバーの連携を今まで以上に強くして、チーム一丸となって活動していく必要があると考える。



新メニューのホットサンド  
ハム&チーズとハム&エッグの二種類から選べる。

# 未来看護塾

## プロジェクト紹介

### 未来看護塾とは？

私たち未来看護塾は、近江楽座一年目から存在する、今年度で10年目を迎えたプロジェクトです。地域の人々や医療現場の看護職、ボランティアの方々といった全ての人を対象にして実際に交流する機会を持ち、看護における対人関係の意義を学ぶと共に、様々な年代や条件の人との関わりから人が人としてその人らしく生きることを志向することを目的としています。内容は以下の三つに分けられます。

#### ①【定期的なボランティア活動】

彦根市立病院小児病棟では、その子の発達段階に応じた関わりを持ち、楽しい時間を過ごします。また家族とのコミュニケーションに参加することで学生ならではの視点で家族が抱えているニーズや、入院中の子どもと家族の関わりの方をとらえます。緩和ケア病棟では、入院している高齢者を対象に、主にティーンエイジを行っています。これらの活動を通して、ターミナル期の患者とのコミュニケーション方法を学び、その発達課題に合った交流を図ります。脳外科病棟では、入院患者を対象にハンドマッサージをし、病と共に生活している人々の悩みを傾聴したり、他愛もない話をしたりして、リラクゼーション効果をもたらしています。NPO法人ほほハウスでは、主に障害を持つ子どもと遊ぶことを通じてコミュニケーションを図る、レクリエーション、施設内の清掃活動・調理などのサポートに参加しています。城南保育園では、子供達を対象に室内での遊びを一緒に行うことにより、その子供に応じた【発達】【健康】のニーズを知ることが目指されています。

#### ②【生き生き支援活動】

生き生き支援活動としては、入院患者を対象として彦根市立病院小児病棟でのクリスマス会、湖風祭、ほほハウスのイベント、野瀬町での催しへの参加、また2011年度から東日本大震災で被害を受けた宮城県南三陸町歌津地区田の浦での復興支援活動を行っています。クリスマス会では、療養生活という非日常的な環境の中にあっても季節を感じることができ、学校や地域の友達と変わらない時間を過ごせる機会を提供しています。湖風祭などの各催しでの「ちびっこ広場」では、こどもの遊びを中心としたブースを設置し、子どもたちに外で遊べる機会を提供しています。

#### ③【ミーティング】

未来看護塾のメンバー同士の活動の振り返りを行う。またボランティアの中で生まれた疑問の解消や学びの共有の場としています。



## 活動場所、拡大

### ちびっこ広場にも新企画

未来看護塾の活動場所に、彦根市立病院の脳外科病棟が加わりました。私たちは以前から、彦根市立病院の小児科病棟と緩和ケア病棟へ行かせていただいていたのですが、脳外科病棟の看護師長さんから声をかけていただいたことがきっかけで、11月から活動場所に追加することが決定しました。脳外科病棟では入院患者さんに対してハンドマッサージを実施しています。そこでは、病と共に生活している人々の悩みを傾聴したり、他愛もない話をしたりして、リラクゼーション効果をもたらしています。脳外科病棟での経験は、実習において大いに役立つもので、今後積極的にみんなが参加していくことが望ましいと考えています。



また、未来看護塾では今年度から「ちびっこ広場」の内容にスライム作りと割り箸鉄砲作りを追加しました。これまでは、魚釣り、輪投げ、射的、シャボン玉、アートバルーンが主な内容でしたが、小学生以上の子供たちの成長・発達を考えたとき、これでは彼らの体力・知能を生かし切れていないということで、スライム作りや割り箸鉄砲作りという工作を取り入れることにしました。すると、湖風祭、野瀬町地蔵盆のちびっこ広場はいつも以上の盛況ぶり、工作に興味を示す子供たちであふれかえっていました。真剣に工作と向き合う顔、完成して喜ぶ顔を見ると、普段学校や家では触れられない材料を使い、普段の生活にはないおもちゃを自分で作るという体験は、子供たちにとってよい刺激となると実感しました。

## 縦のつながり、さらに強く

2013年10月5日、昨年度に引き続き今年度もヒバシティ彦根において、未来看護塾主催のイベント「応援！生き生き健康生活！」が開催されました。現役生はもちろん、三期生を含め、30人近くの卒業生も来てくださり、子供から高齢者までの幅広い年代の方に柔軟に対応することができました。これは、未来看護塾の長年の縦のつながりが強いことの表れだと感じています。当日はヒバシティ彦根のスタッフの方に「企業のイベントでもこんなに人は集まらない。」とおほめいただくほどの大盛況でした。現役生は主にちびっこ広場、田の浦ブース、ハンドマッサージブース、伊丹スープブースを担当し、卒業生は健康相談ブース、測定ブースを担当しました。年齢の近い卒業生がプロの看護職として、健康相談などを通して来場者と触れ合う姿を見た現役生は、刺激を受け、多くのことを学ぶことができました。イベント終了後は、そのままヒバシティ彦根内の飲食店で交流会が開かれました。現役生、卒業生が混ざってテーブルにつき、楽しく談笑しました。学校の授業やテストのこと、実習のこと、卒業生の仕事のことなど、普段はできない他学年との会話は非常に興味深く、役に立つ話はかりでした。今後、未来看護塾特有のこのような縦のつながりを生かした活動を続けていきたいです。

四月に多くの一泊生が入ったことで百人以上のメンバーが所属する大きな団体となった今年度、その利点を生かすことでイベントの準備や運営において非常にやりやすくなった上に活動の幅も広がりました。たとえば、田の浦でのイベント開催において、今年はチラシ配布を行いました。三〇人近くで訪問したため広範囲にイベント開催の広報ができ、当日は前年度のイベントよりも多くの方がきてくださりました。また、大津市の健康イベントにボランティアとして参加し、大津市の保健師の方々に未来看護塾の活動を知っていただけました。さらには彦根市立病院脳外科病棟も活動場所として加わったことで、活動場所が彦根市内、滋賀県内、そして被災地にまで幅広くなりました。これは、一期生の先輩方から築き上げられてきた未来看護塾の基盤が、十年目を迎え徐々に固まってきたことの表れだろう。そして看護学生として、学校や普段の生活では関わることのできない対象と関われる我々の活動は、とても貴重な体験になっていると改めて実感できる一年でした。

未来看護塾として四回目の田の浦訪問の際には、事前に田の浦の方々の意見を聞いておき、イベント内容を考えたいという形をとりました。対象のニーズに合わせて提供する内容を考えることは看護職に必要なことであり、この姿勢を忘れずにいたいです。

今年度の活動を通しての課題は、メンバーによって参加状況の差が大きいことです。我々の活動はとにかく一度参加してみても、自分にとってどれだけ学びの多いものかを感じてもらうことが不可欠です。来年度は新入生を対象とした仮所属期間のようなものを設け、一度は活動に参加してもらい、意義を感じ取ってもらってから所属するか否かを決めてもらうように考えています。

## 1年間の活動を通しての成果と課題

### 地域の声



障害のある子供の通うほほハウスの福井久美子さんからは、「何らかの課題や障害のある子ども達の社会体験の中には、いろいろな年代の人と出会うことも人的体験の一つだが、子ども達に近い10代後半から20代前半の年代との関わりは獲得が難しい。従って、学生の関わりは大変重要な役目を果たしている。体験活動中は、学生方が子どもひとり一人に寄り添いそばで見守ってくれ、改めて寄り添うことが子ども達を成長させてくれるエネルギーになる。また時間の経過の中で関る学生の姿にも言葉かけや仕草から相手を受入れようとする様子が見られ、子ども達が成長する姿と共に学生達も逞しくなっている。この学生たちの活動が地域に育つ子どもを支えてくれている役割として重要であると実感している。」という言葉をいただきました。



## 政所茶レン茶一とは

滋賀県東近江市政所町にて、お茶づくりを通じた地域活性化にチャレンジするチームです。

滋賀県立大学の授業「地域再生システム（特）論」をきっかけに2012年9月に活動が始まりました。

お茶づくり、情報紙「茶レン茶一」の発行、地域イベントの開催を3つの軸に活動をしています。



# 政 所 茶 レ ン 茶 一

6月1〜2日、待ちに待った初めてのお茶摘みをしました。雨でもなく快晴というわけでもなく、ギリギリと照る太陽を雲が覆い隠してくれ作業のしやすい二日間でした。

傾斜地の多い政所の茶畑では、その茶樹の形からも機械での摘み取りはできません。そのため政所では、はさみでの刈り取りや伝統に培われた手摘みによってお茶が収穫されます。初めてということもあり、私たちも意気込んで手摘みに挑戦しました。

最初は皆、初めての経験にうきうき楽しんで作業を進めます。しかし、暫くすると皆の笑い声が段々と小さくなっていく：想像以上に大変な作業だったのです。果たして今日中にどれだけ摘むことができるのか。結果、一日は茶工場に出せるぎりぎりの量でした。そしてメンバーは焦り出します…。

前日の作業を巻き返すため、二日目の朝は5時にスタートです。川のせせらぎと鶯のさえずり：朝、大自然の中とする作業は、眠い



### わたしたちの師匠！ 白木 駒治 さん

アメニモマケズ、カゼニモマケズ、頑張ってくれましたね。僕の拙いお茶づくりの指導をよく理解してくれて、慣れない仕事に皆で一生懸命取り組み努力してくれた事に感謝している。

正直言っていつ挫折されるか半信半疑の時もありましたが、去年6月に君達の摘み取った新茶が出来上がった時、皆が袋の中を覗き込み驚嘆しながらうれしき一杯の笑顔を見せて喜んでくれた事が忘れられない。

茶レン茶一の組織は、すでに政所町内は言うに及ばず奥永源寺中に知れ渡り今後の活動が大いに期待されている。

4年間の学生活動の中で継続していくことはなかなか大変なことですが、英知を結集して有名な政所茶の存続の為に末長く皆さんの力を貸して下さい。

今年も茶園が君達を待っています。

けど、気分はとても爽快でした。たくさんの方々との協力の下、この日の収穫は前日の倍以上。皆さんとても頑張りました。その後、とれた生葉が新茶として完成します。私たちの初めての政所茶です。袋詰めからパッケージの作成まで、専門家のアドバイスメも取り入れながら、試行錯誤を経て自分たちの手で商品化となりました。その名も「茶レン茶一の茶」。そして、ありがたいことに無事お茶を売り切ることができました。皆さん、本当にありがとうございます。

初のお茶摘み  
一番茶

「茶レン茶一の茶」  
売り切れごめん！



## 1年間の活動 成果と課題

今年度はどれにしても手探り状態で、大きな喜びとまた不安を抱え残したような一年間だった。政所茶レン茶一の活動は当初、まだ発足して一年も経たない頃であった。経験の浅い余所者がいきなり地域活性化と言い好き放題したところで、地元住民の方々にとっては訳の分からない状態が続くだけだ。そのため、今年度は政所茶レン茶一の土台づくりとなる活動を目指した。たくさんのご縁から多くの方々に協力して頂き、政所町内だけでなく外部からの周知を得ることができた。

ただその分、全体としての活動が流されるような若干受け身状態となりがちで、ひとつひとつしっかりと実を結べたのが不安だ。土台づくりと言いつつインプットよりもアウトプットに先走る傾向も多々あった。またメンバー内での活動への意識・情報の共有も難しく、仕事の分担なども上手くできなかった。

政所茶レン茶一は学生だけの組織ではなく、教員はもちろん本学の卒業生や社会人メンバーなど政所やお茶に関心のある人々が構成されている。今では発足の年目に入るが、まだ土台づくりの期間は終わりそうにない。特に継続的に活動を続けていくためにも、チームの組織体制を見直し今後の方向性を再設定したい。



このキャンドルナイトは、同年八月二十四日に実施予定でしたが、悪天候のため開催が延期となりました。再びリベンジをかけて、このイベントに取り組み、無事全てのキャンドルを並べ終え、点灯することができました。

イベントを開催するに辺り、デザイン案を小学校の生徒から募集をかけ、それを基にデザイン、キャンドル配置図の作成を行いました。また、イベントで使用するキャンドルの製造を東近江市の福祉作業所「びわ湖ワークス」さんに委託し、一万個すべてのキャンドルの製造を行って頂きました。こういった取り組みはこれまでのあかりんちゅの活動の中でも行ったことがないことでしたが、新たな取り組みとして経験することができて良かったです。このイベントは、小学校の先生、PTA方々を始め、本当に皆さんの協力の力で開催できたイベントです。あかりんちゅのこのイベントを通して、大規模キャンドルナイトでのノウハウを得ることができたと同時に、見に来て下さった人たちに喜んで頂くことができて良かったです。



## あかりんちゅ



発行日 2014年3月31日

### プロジェクト紹介

### エコでスローな夜を

私達は、寺院や結婚式場等からいただいた蝋燭をリサイクルキャンドルに作りかえ、地域でキャンドルナイト、キャンドル作り教室、キャンドルの販売などの活動を行っています。

リサイクルキャンドルを使用することで、環境的な意味を付加したイベントにし、電気を消してリサイクルキャンドルを灯して過ごす「エコでスローな夜」を広めることを目標としています。また、キャンドルナイトを実施することで地域の人が集える癒しの場を地域に創りだします。

### ビッグニュース

### ★ 一万個のキャンドルでキャンドルナイト

二〇一三年十一月二十三日、滋賀県東近江市立能登川南小学校の創立百周年記念祭でキャンドルナイトをさせて頂きました。使用したキャンドルは一万個で、あかりんちゅのこれまでの活動のなかで最も大きい規模のイベントとなりました。



### 「ちょっ」ときいてよプロジェクトの自慢

### ★ ハンドベル演奏を交えた「灯×音」

あかりんちゅは活動の中で、「灯り×音楽」という、キャンドルナイトでのハンドベル演奏を行っています。今年度は昨年度よりもメンバーの数が増えたこともあり、これまで挑戦したことのない曲の演奏を行うことができました。今後もより一層ハンドベル演奏に力を入れていきたいです。

### ★ 斬新なアイデア！キャンドル商品

あかりんちゅはキャンドル商品の販売も行っています。中でも本物そっくりのドーナツキャンドル、かき氷キャンドルは人気商品となっています。今後も斬新な商品開発が期待できるでしょう。



### II 地域の声

責任ある仕事を達成した喜びと自信は何ものにも代えがたい財産になったと思います。本年は能登川南小学校創立100周年記念のビッグイベントキャンドルナイトの成功と、ひこねキャンドルナイト実行委員会の会議でのイベント提案から配置設計まで運営全般を淡々とこなしていただきました。お陰様で年々お客様も増え本年のキャンドルナイトは最高の人出となり知名度が大いに高まりました。これから共にイベントを開催する大きな意味を理解していただき、常に真剣な取り組みと、最善でなくとも懸命な行動力。ディスプレイしない行動は、次のステップに向かう時必ず生きてきます。イベント終了後は成果の検証を繰り返して行ってください。より多くのお客様に感動を与えられる事業にぞだっという事を願っております。あかりんちゅの皆様のご健闘に期待しております。

### II 一年間を通じた成果と課題

今年度の一番の成果は、あかりんちゅの活動の中で今までに経験のない、最大の規模である能登川南小学校創立100周年記念での一万個のキャンドルナイトを成功させたことである。大規模なキャンドルナイトを行う上での様々なノウハウを獲得できた。メンバー全員で話し合い、協力し、連携して作業を進め、チームワークが高まった。すべてのキャンドルに火を灯すことができたときは、共に達成感と感動を味わうことができ、あかりんちゅメンバー自身も「エコでスローな夜」を過ごすことができた。また、1500人を超える人に見に来ていただき、喜んでいただけるとはなにより嬉しく感じた。

今年度は、あかりんちゅの運営がメンバー全員でできた。ひとりひとりの役割を持ち責任を持って動くことで、モチベーションの維持とチームワーク形成につなげることができた。あかりんちゅの活動のリズムができてきたように感じる。また、メンバーが増えたことで一年間に多くのイベントをすることが可能となり、難しい曲のハンドベル演奏や大規模なキャンドルナイトへの挑戦ができた。この一年で、更なる活動の可能性が広がった。

反省点として、活動拠点場所が見つけれないこと、商品キャンドルの製造・販売が昨年度よりも減ってしまったことがあるが、その分キャンドルナイトやキャンドル作り教室などのイベントに力を入れてきた。拠点探しは今後の課題とし、その解決とともに、あかりんちゅの発展につなげていきたい。あかりんちゅが多くの方々に支えられて活動できていることを改めて感じた。また、多くのイベントで「人とのつながり」を感じることができた。これからもつながりを大切に、メンバーひとりひとりがしっかりと責任をもって活動に取り組み、初代からの想い「リサイクルキャンドルでスローな夜」を広めていきたいと思う。今年度の活動を活かし、今後もあかりんちゅは更なるスキルアップを目指し、小さいイベントから大きなイベントまで様々な活動に取り組んでいきたい。

# 会 魅 能

# ラリルレトロ

活 動 報 告 新 聞

## の み かい 能 魅 会 と は ？

こんにちは！私たちは「能魅会（のみかい）」という滋賀県立大学の団体です。能魅会とは、「能登川を「魅力的にするための「会」ということで募ったメンバーで構成されています。滋賀県立大学にて二〇一一年に発足し、今年で活動三年目を迎えました。私たちの活動拠点である能登川商店街は、駅を境にした反対側に大型の商業施設が繁栄したため、利用者が減少しています。商店街は様々な店舗が営業されているにも関わらず、利用は近隣に住む高齢者が中心です。私たちはそんな能登川商店街を魅力的にするためのお手伝いとして、三年前からカフェ「ラリルレトロ」を運営しています。



能魅会マスコットキャラクター  
レトロコちゃん

能登川商店街は、昔懐かしい雰囲気が漂う素敵な空間であり、それを活かせるように、カフェでは昭和レトロをモチーフにした店づくりをしています。活動の軸は月に一度のカフェ活動です。月ごとに様々なテーマを設定し、それに沿った軽食やワークショップを提供しています。二〇一三年度からは、月ごとに能登川商店街の店舗とのコラボ企画をスタートしました。ご協力いただいた店舗とお話しを進めながら、私たちにしかできないカフェづくりを目指してきました。



## 商店街カフェ、はじまる



能登川商店街×ラリルレトロカフェのコラボ企画。こちらは、二〇一三年度より新しくスタートした企画です。私たちがこれまで目指してきたものは、「昔懐かしいあの味」でした。閑静な商店街にたずむ子民家で、昭和の歌謡曲を聞きながら、あの頃通ったあの店をお客様の心に思い出してもらいたいと思っていました。昨年4月からは、ナポリタン、厚焼きたまごサンド、プリンアラモードなどを定番メニューとして掲げ、この懐かしい味が未永く愛されるように願いました。しかし一旦知っていた味を、もう一度また食べたかと思っただけで運んでもらうには、何か足りない気がしていました。そこで生まれたのが、商店街コラボ企画です。月ごとに、あらゆる能登川商店街の店舗とコラボ企画を実施しました。協力してくださる店舗の方と相談しながら、共同カフェを開催しました。商店街の店のさらなる魅力を、能登川の人々に知ってもらえるような活動や企画を考えました。私たち自身も知らなかった商店街の魅力を伝えることができましたし、お店の方々のつながりを改めて感じることができた機会となりました。そして、カフェを通じて、来店していただくお客様にその魅力をお伝えすることができたのも大変良かったと感じています。

ラリルレトロカフェの重要なキーワードでもある、「能登川商店街」。今年度のカフェではコラボレーションをさせていただくということもあり、どんな企画をすれば商店街の魅力を発信できるのかということは常にテーマとして、課題として、様々な形でわたしたちの頭にありました。企画の一環として、お店を構えていらっしゃる方々に直接お話をうかがう機会があり、そこで生まれた新たな問題もありましたし、また新たな発見も多くありました。

またお客様からの声もわたしたちにとって大事な意見であり、アンケートも昨年に引き続き行ってきました。様々な意見をたくさんいただくなかでも褒め言葉や指摘など、様々なものです。そうしたお客様の率直な意見がいただきやすいというのは、学生という立場の特権であり、よりよい活動に活かしていけるのだと考えています。

そうして作り上げてきた今年度のラリルレトロカフェですが、学生が動くことそのものに元気づけられる、頑張っしてほしいなどという言葉が聞くことが増え、先代からの先輩方が築き上げてきた活動が地域の方々に理解を得つつあると実感するとともに、広報不足という基本的な活動が少なくなってしまう、うまくいかない月もありました。企画段階だけ密になるのではなく、毎日の積み重ねがお客様に繋がるということを再確認させられた経験でした。

## カフェとお客さまと能登川 ～よりよい町にするために～



4月、新メニューを掲げて、新たなカフェづくりに取り組む中で生まれた新しい空間がありました。それは、カフェスペースの一角で、ココロもカラダも元気になれる癒しの整体コーナーです。このような素晴らしい空間を実現できたのは、いわき整体所さんのご協力があったからでした。いわきさんは、私たちが毎月カフェを開催する日程にあわせて、出張整体をしてくださりました。「東洋医学を応用した頭から体へのツボトリートメント」ということで、いわきさんが手を施してくださいるのは頭のツボ。私たちスタッフも、交代でいわきさんの整体を体験させていただきました。キツチンやホールでせつせと働いた疲れが、いわきさんのパワーによって癒されます。施術を終えたスタッフたちは皆、深く長いため息をつきながら、軽くなった体の不思議な余韻を味わっていました。アタマから、ココロもカラダも元気になります。カフェに足を運んでくださったお客様の中に、いわきさんの整体のパワーの虜になってくれる方もいました。「来月のカフェはいつ？またやってもらえないかしら」と、大好評でした。

## あたまでスッキリ！ 整体パワー



## 三年間の感謝を込めて



私たちが活動を始めて、早6年が経ちました。閑静な能登川の一角で、学生が一体何をしているのだろうか？と不思議に思われた方もいたことでしょう。中には、ふらっと足を運んでくださった方もいらっしゃるかもしれませんが、そのまま首をかしげて通り過ぎる方も、まったくお店に気にもとめず通り過ぎていった方もいたことだと思えます。そして、私たちがここで活動をしてきた、という事実も、すべてすべてが何かの縁であったのだと思います。今や、低価格で行き届いたサービスを受けられる飲食店は数多く存在します。そんな中、私たちの活動に欠かすことのできない、「お客様」になってくださったすべての方に感謝しております。月に一度、こんな素敵な場所を借りてカフェ活動を続けられたことは本当に貴重な経験でした。私たちにあって、このカフェ活動は大きな誇りです。たった月に一度であったかもしれませんが、そこには数知れず苦勞や不安がたくさんありました。毎月押し寄せるその壁をメンバーで乗り越えた先に、はじめて楽しさが待っていました。その楽しさを感じられたことが何よりも誇りです。この場を借りて、私たちの活動に関わってくださったすべての皆様に感謝の気持ちを伝えたいと思います。たくさん迷惑をおかけしたことと思います。それでもあたたかく見守って、活動を応援してくださり、本当にありがとうございました。

## とよさと快蔵プロジェクト

2004年に発足したとよさと快蔵プロジェクトは、昔ながらの風情ある町並みを持つ豊郷町の空き家となっている10件の古民家や蔵を活用してきました。改修作業のみならずとよさと町内のイベントに参加したり、イベントを企画したりと私たち学生が豊郷町にできる「まちづくり」とは何なのか模索し活動しています。

### 今年も開催 ミツマルシェ！



イベントスペース満ち家にて、様々なアーティストさんや雑貨店、他楽座団体に協力して頂き、マルシェ（市場）形式でWSや販売などを行った。吉田の中心的存在でもある酒蔵のイベントと同日開催したこともあってか、来客数も約160名とにぎやかなイベントとなった。町の方々にも来ていただきコミュニケーションもとれてよかった。



### デッキ作成！



満ち家と村岸邸にデッキを作成。満ち家のほうはイベント時に庭を活用したくその上で庭に接続できるものを作りたいということでコンペを行い設計。村岸邸は、コミュニティスペースの部屋をつなぐ役割も果たす。規模も少し大きいが、一回生が中心となり作成！



### 念願のとよポロ！



学生でデザインをし、団体のポロシャツを作成。改修時やイベント時に活用しました。

### 町のイベント にも積極的に参加！



地域主催のイベントやお祭りに積極的に参加しお手伝いさせていただく。ただ、町に行くだけではなく学生の行動力を十分に発揮し町の方とコミュニケーションをとっていく。改修とは一見関係ない用に見えるがとても重要なこと。

### ジャズライブと ビアガーデン！



地域住民や学生にタルタルガを再発信し、より地域に馴染んだ場にするためには、定期的なイベントが必要であると考えた。昨年はタルタルガの運営体制等の見直しの上でリニューアルオープンイベントとしてビアガーデンを行ったが、今年はイベントとして定着させ、2年生が主体となって企画、運営することになった。

### 町の方と会議！



村岸邸を改修するにあたって、町の方と会議を行う。内容は村岸邸のプランをどうするかや今後の方針、シェアハウスの入居者の問題など、今までなかなか話すことの出来なかったことを話し合った。今後もこのような会議は定期的に続けていきたいと感じ、現在月一の会議が出来るように計画進行中。

### 毎回そのポストカードたのしみ。かわいくて飾ってる。



※2013年に作成し町に配布させて貰ったフライヤー

本当に君たちの活動には感謝している。それを見て僕たちも頑張っって動いていかなくてはいけないと思う。一緒にがんばっていったらなと思ってる。

PO法人まちづくり委員会 Oさん



## 成果と課題

今年度の活動の一番の成果は町のとのつながりを再構成できたところにあると考える。とよさと快蔵プロジェクトが発足して10年、改修させてもらった古民家が10件と活動の幅も広がる中で、ただ物件の改修をいくにも限界があると考え、今年は今までの物件、特にシェアハウスの入居者を増やすことで、その費用を活動資金に還元できるようなシステムを作ろうと試みた。その成果もあり来年度からはシェアハウス全物件に学生が住まうことが出来るようになり、もともとのコンセプトでもあるシェアハウスから生まれた資金を活動に還元させることも再来年から可能になってくる。また、その中で、町の方（代表してNPO法人豊郷まちづくり委員会）の方々話し合う機会も増え、今後の方針を話し合えるきっかけともなり、より町との関わりが深まった一年となった。その背景には、豊郷町のイベントに積極的に参加することや、町に対してイベントを開催してより多くの町の人に快蔵の活動を知って貰う機会を増やしたことで、学内コンペや町に提案を積極的に行うことで、町の方からも様々な意見を頂くこともできたことも要因となっている。今後の課題は、物件を改修していだけの団体ではなくなったことを認識し、その上で何を提案でき活動するかが鍵になってくるので、一つ一つの活動を町の人を含め全体で考えていく必要がある。しかし、スローペースになることは禁物なので、短い時間の中で深い議論を行い、実践する能力を身に付けていくことが重要である。